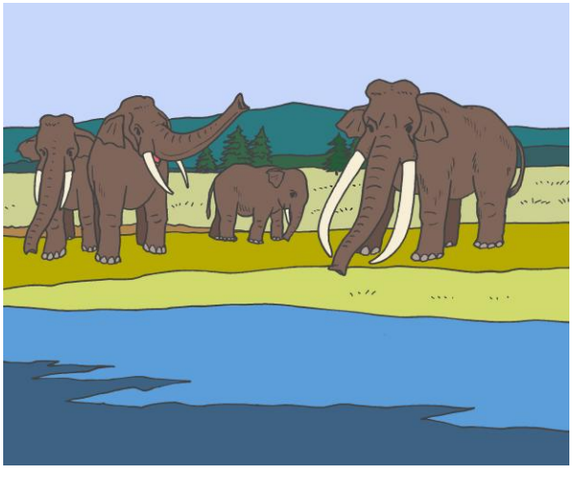
kid's 考古学くらぶ vol.6　オンラインによる談話会 1月19日(月) 19時～20時

海のなりたちと縄文人の生活
～瀬戸内海の遺跡から考える

大昔（おおむかし）、いまから２万年前（まんねんまえ）の旧石器時代（きゅうせっきじだい）には、瀬戸内海（せとないかい）という海（うみ）はなく、いまの海（うみ）の底（そこ）になっているところで、人がナウマンゾウやオオツノジカを追（お）いかけていました。
縄文時代（じょうもんじだい）になると、だんだん海（うみ）が入（はい）りこんできて、瀬戸内海（せとないかい）ができました。
どうして海（うみ）ができたのかな？
海（うみ）の底（そこ）には、何（なに）がのこされているんだろう？

この謎（なぞ）を知（し）りたい人は、“kid's考古学くらぶ”に遊（あそ）びにきてください。きっとワクワクするようなお話（はなし）がきけますよ♬



Zoomによるオンライン談話会

日　時：１月１９日(月）19時～20時
参加者：小学生
参加費：無料
※「きくだけ参加」は 中高生も可

おはなし してくれる先生

むらかみ　やすゆき
村上　恭通　先生

愛媛大学（えひめだいがく）の教授（きょうじゅ）。日本だけでなく、世界中で有名（ゆうめい）な鉄器（てっき）の研究者（けんきゅうしゃ）。長年（ながねん）、瀬戸内海（せとないかい）の島（しま）の遺跡（いせき）の発掘調査（はっくつちょうさ）にも取（と）り組（く）んでいる。昨年（さくねん）亡（な）くなられた、kid's考古学研究所の柴田 昌児（しばた しょうじ）先生のお友だちで、今回（こんかい）“くらぶ”を引（ひ）き受（う）けてくださいました。

【申込み】～1/17(土) 18時までにメールで連絡してください
kid's考古学研究所　info@kids-kouko.com